

孫ゼミ広州ゼミ合宿特集

中国広州の建物と美食！

広州合宿の感想

私は、孫安石ゼミナールに所属している、外国語学部中国語学科3年生。今年2025年は、中国広東省広州市で、9月11日から17日までの1週間を過ごした。今回の合宿では、中国で困った点、便利な点どちらも経験したので、感想を以下にまとめた。

困った点は大きく2つある。1つ目は、初めて家族とではなく1人で中国に行ったので、日本から離れ異国の電子マネーやアプリを使えるようになるまで不慣れで手間がかかった。また、交通手段の移動や支払いも慣れるまでに時間がかかった。中国の電話番号がないと予約できないタクシーや、カードがないと乗れないバスなど中国で毎日新しい情報が共有されていき、情報更新が忙しかった印象だ。2つ目は、標準語だけ知っている状態だと、広州のネイティブ中国人の中国語がほぼ聞き取れなかったことだ。方言が混じっている中国語だとしても、あまりに聞き取れず、理解と返事に苦労した。

便利だった点は、大きく2つある。1つ目は、WeChatやアリペイを設定さえすれば、使えないお店は今回の旅で1回も無かったのと、支払い

私のダイアリー in 中国広州

外国語学部 中国語学科 孫安石ゼミナール

外国語学部 中国語学科3年 東海林美里

がスムーズなことだ。荷物が減るし、1週間でWeChat支払いの扱いも全て覚えられた。日本でもタッチ決済が使えるお店がさらに増える未来がなるべく早くきて欲しいと思った。2つ目は、タクシーの安さだ。日本は、タクシーといえば高い値段のイメージなので、中国広州では、タクシーが安くてとても驚いた。しかもタクシーは友達と乗っていれば割り勘できるので、さらに安くなる。このタクシーの存在と値段が今回の旅でも助かった。中国旅行おすすめの理由の1つに、中国タクシーの値段のお手頃さを挙げられる。振り返ると1週間毎日、移動はタクシーに乗っていたほどだ。

広州のヨーロッパ風建築物3選

1つ目、「沙面」は、アヘン戦争以降イギリスとフランスによって租界となり、人工島として開発された。西洋風の建物と、緑豊かな景観、平地で歩きやすく、直線的でゆとりをもった幅広い道が



沙面

特徴的なエリアだと感じた。中国とは思えない、まるで海外旅行に来たような風景だった。建築物はヨーロッパ風で、直線や曲線を描くような形。色も全体的に色彩が薄い淡い見た目で、とても美しく、歩いて移動中にウエディング撮影や、個人撮影の現場を何回も見かけたことから、人々を魅了していることが分かる。

2つ目、「広州聖心大教会」は、北京条約以降、フランスに租借されたエリア。建物はカトリックの教会で、25年かかって、1888年に完成。外観の色は黄身がかかったアイボリー。丸三角四角のデザイン性が見てとれて、アーチ構造からもヨーロッパ風だと伝わる。それはまるで童話に出てくるお城のようだった。室内にはシャンデリアが吊るされ、ステンドグラスは太陽の光によって照らされ幻想的な雰囲気を出している。



広州聖心大教会

3つ目、「流花湖公園」は、西洋風の建物だ。白いお城別名ホワイトハウスがポツンと1つあり、その周りは湖となっている。最も外側の歩けるエリアから散歩ができる。どこを歩いても写真を撮っている人々だらけで、多くの人が写真映えを目的に来る、人気な場所だと分かる。中国WeChatは、日本で言うラインとインスタの融合したようなもので、このWeChatの投稿文化が、これほど多くの若い年齢層の女の子達を引き付けているのだろうかと感じた。

広州のおすすめ美食6選

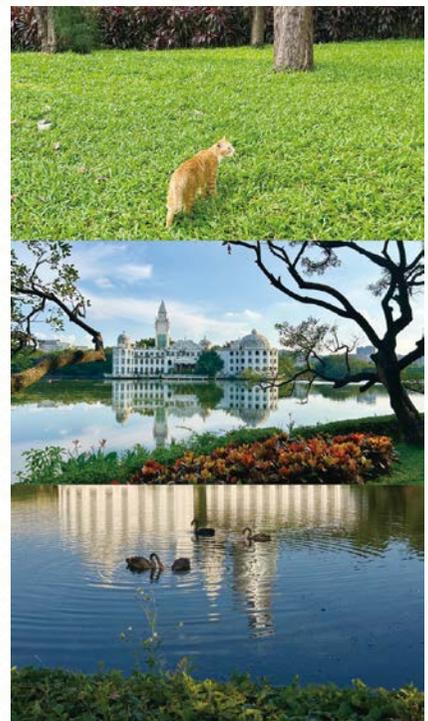
中国といえば、ドリンクのチェーン店がとても多い。この安くて大容量の「奶茶店」は、多くの人々に愛されている。そこで、私が合宿期間中2回以上飲んだドリンクをおすすめとして2つにしほってご紹介！ HEYTEAとCHAGEEという2つのチェーン店。これらは、中国で知らない人はいないほど有名だ。

1つ目、HEYTEAの「楊枝甘露」はマンゴーラッシュで、具材が多く贅沢な味わいで、小さいぶにぶにとしたタピオカ入りで食べ応えもあるの、個人的にとってもおすすめ！ カップは透明なので、他にもある様々なカスタマイズ商品によって、個性豊かで色鮮やかな見た目となる。



HEYTEA

2つ目、CHAGEEは、ティーらしい味が好きな人におすすめ！ その中でも、広東限定のドリンク2種類が特におすすめ。理由の1つ目に、パッケージがあげられる。オレンジ色が基調となった獅子のイラストは、もちろん広



流花湖公園

東限定デザインで、オリジナリテイがありとても可愛い。写真を撮って思い出になること間違いなし！2つ目の理由は、味わいはさっぱりした癖がない柑橘系で、日本人が馴染み深い、飲みやすいと思った。

3つ目、「沙面」にある「CAFE FLEUR」というカフェ。様々な食べ物、飲み物、お酒も取り揃えてあった。外観だけでなく、インテリア、メニュー商品もオシャレで心が踊る。喫茶店のような雰囲気のお店。

このカフェの建物について、室内に歴史紹介がされていた。それによると以下の大きく2つのことが分かった。1つは、当時インドの投資者が出資し、1914年に当時有名な建築会社が建てたこと。もう1つは、2017年に国からある会社がこの建物を借り、芸術として輝きを取り戻そうと行動し、今このカフェ運営をしていることが分かった。

4つ目と5つ目は、「秘密旅行」と「木可花房」というレストラン&カフェ。



秘密旅行



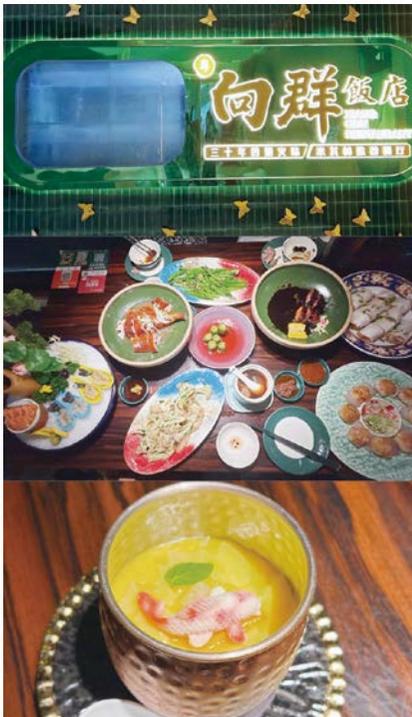
CAFE FLEUR



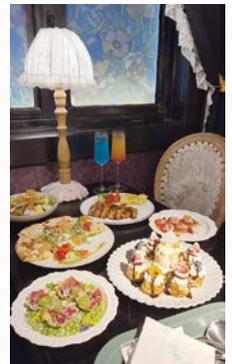
CHAGEE

2つとも中国版インスタの役割を果たすレッドというアプリで有名なチェーン店だ。日本で言うインスタ映えフード・ドリンクであり、店内やメニュー商品の見た目がとても綺麗・可愛いのが特徴的だ。チェーン店というのもあり、レッドで調べてみると、同じお店でも店舗によって店内のインテリアデザインが異なり、他の店舗にも行きたくなるような工夫がされている。

6つ目は、「向群飯店」というレストラン。緑を基調としたインテリアで、内装は高級感抜群。メニューには刺身料理がいくつかあったが、日本国内より割高だった。また、日本と違う様々な、広東の味付けや食品を使った料理を沢山食べることができて、お皿や盛りつけも綺麗でとても満足できた。また、お皿のサイズはどれも大きく、大人数で分け合えるようなタイプで、家族連れやカップルで店内が賑わっていた。



向群飯店



木可花房

私が見た中国

広州で感じたこと

2025年9月11日から17日までの7日間、私たちはゼミ合宿で中国の広州を訪れた。そこで出会った人々と、そこで見た広州の景色が以前の私たちが想像する中国という国の印象を大きく変えた。

空港に到着してからホテルに向かう際、私たちは地下鉄で移動した。中国は地下鉄が主流ということを知ったのはこの時が初めてだった。まず驚いたのは地下鉄の中で荷物検査があったということだ。日本で荷物検査を受けることは日常の中でないため、日本との違いを感じた。そして中国の規制の厳しさも実感した。

地下鉄を降りて地上に出たとき、建物の大きさと交通量の多さに驚いた。特に印象的なのは歩道をバイクが通っていた時だった。最初クラクション



嶺南印象園



北京路步行街

ンの音で後ろを振り返ってバイクが迫ってくるのを感じたとき軽れると思った。日本では減速に鳴らないクラクションを通るたびに鳴らしてくる。日本との違いをはっきりと感じたこの時に中国に来たことを実感した。

中国についてから二日目、私たちは広州外語外貿大学の学生さんと交流する機会があった。交流をすることはわかってはいたが、交流前の私たちはその日だけの交流だと勝手に思っていた。しかしファッションというテーマを通じて三人の学生さんたちと調査をすることになった。彼女たちはファッションについてだけでなく、広州に来たなら行ってほしいところがあると私たちが丁寧にもてなししてくれた。おいしいごはん屋さんを予約してくれたり、若者の集まる街などを紹介して

外国語学部 中国語学科3年 谷島拓実

くれたりと三日目から最終日まで本当に親切にしてくれた。日本の礼儀が好きという彼女たちは、常に私たちが楽しめているかを気にかけてくれた。みんなで見た夜の広州タワーは格別だった。周りの道はとも開けていて、ライトアップされているあの道は必ずまた行きたいと思わせてくれるほどきれいだった。正直、彼女たちと会う前は反日のことを気にして中国人に対してあまりいいイメージは持っていなかった。しかし忙しい中私たちのために時間を使ってくれる彼女たちの姿は、そんなイメージを完全になくした。実際に現地に行って彼女たちと交流できたからこそできたこの経験は忘れることはないだろう。同時に、もしまた会えたら次は翻訳機に頼らないようにしようという彼女たちと交わした約束は、私たちの中国語を学ぶ活力となり、意味になった。



広州タワー

ている。TODを積極的に進めている広州地铁集团有限公司は、地下鉄の延伸によって都市を広げ、地域の開発を続けている。

廣州市城市规划展覽中心にも渋谷駅の「都市再生計画」の展示(図4)があり、公共交通と都市の開発との関係性を示していた。日本においても大正時代、田園都市の開発に東急電鉄の前身の目黒蒲田電鉄が大きく関わっていたことは知られている。



図3 万勝広場の地下鉄風喫茶店



図4 廣州市城市规划展覽中心の展示

(3) 広州地下鉄雑感

今回の広州地下鉄のフィールドワークで、11の路線に乗った。1時間以上かけ4号線終点駅の南沙客運港駅に向かった時に、石碁駅から金州駅の間、車両は地下より地上に出て高架線を走り、外の景色が楽しめた。21号線にも高架駅がある。また18号線、21号線では快速と各駅停車運航があった。2024年に開通した11号線は環状線で内環と外環があり、私は天河公園から員村まで内環に乗った。また、公園前駅は混雑緩和のため両側のドアが同時に開き驚いた。

広州の地下鉄は、全てのホームにホームドアがあり、2017年以降新設された駅には授乳室が設置されている。障がい者用トイレもあり清潔なトイレだった。エスカレーターは稼働していたが、一部駅でエレベーターが稼働していなかったことが残念であった。



図5 広州地下鉄、障がい者トイレ

No	路線	起点	終点	駅数	開業	最終延伸	路線距離km	営業距離km	1日利用者数	備考
1	1号線	西塢駅	広州東駅	16駅	1997.6.28	1999.2.16	18.497	18.497	83.43万人次(2024年)	
2	2号線	広州南駅	嘉禾望崗駅	24駅	2003.6.28	2010.9.25	31.8	31.8	111.05万人次(2024年)	
3	3号線	海傍駅	機場北駅(本線)	34駅	2005.12.26	2024.11.1.	74.89	74.89	180.54万人次(2024年)	体育西路-天河客運站駅(支線)
4	4号線	南沙客運港駅	黃村駅	23駅	2005.12.26	2017.12.28	60.03	60.03	39.02万人次(2024年)	
5	5号線	滘口駅	黃埔新港駅	30駅	2009.12.28	2023.12.28	41.7	41.7	103.90万人次(2024年)	
6	6号線	滘峰崗駅	香雪駅	32駅	2013.12.28	2016.12.28	42	42	79.09万人次(2024年)	
7	7号線	美的大道駅	燕山駅	28駅	2016.12.28	2023.12.28	54.24	54.24	40.35万人次(2024年)	
8	8号線	滘心駅	万勝圍駅	28駅	旧2号線: 2003.6.28 8号線独立: 2010.9.25	2020.11.26	32.9	32.9	97.30万人次(2024年)	全線開業時: 江府駅~59.3km
9	9号線	飛鵝嶺駅	高增駅	11駅	2017.2.28		20.1	20.1	11.62万人次(2024年)	
10	10号線	西塢駅	楊箕東駅	11駅	2025.6.29		17.2	17.2		将来的には18駅 25.35km
11	11号線	赤沙駅		31駅	2024.12.28		44.2	44.2		環状線
12	12号線	西段: 滘峰崗駅 東段: 二沙島駅	西段: 広州体育館駅 東段: 大学城南駅	17駅	2025.6.29		27.9	27.9		将来的には25駅 37.6km
13	13号線	魚珠駅	新沙駅	11駅	2017.12.28	2025.9.25	28.3	28.3	12.42万人次(2024年)	将来的には34駅
14	14号線	本線: 嘉禾望崗駅 支線: 新和駅	本線: 東鳳駅 支線: 鎮竜駅	本線: 13駅 支線: 10駅	本線2018.12.28 支線2017.12.28	2025.9.25	75.3	75.3	23.54万人次(2024年)	
15	18号線	万頃沙駅	洗村駅	8駅	2021.9.28		58.7	58.7	11.40万人次(2024年)	
16	21号線	天河公園駅	增城広場駅	21駅	2018.12.28	2019.12.20	60.5	60.5	28.57万人次(2024年)	
17	22号線	番禺広場駅	陳頭崗駅	4駅	2022.3.31		18.2	18.2	5.43万人次(2024年)	
18	広仏線	新城東駅	滘滘駅	25駅	2010.11.3	2018.12.28	39.6	39.6	55.56万人次(2024年)	
19	A P M線	広州塔駅	林和西駅	9駅	2010.11.8		3.94	3.94	4.15万人次(2024年)	

別表 広州地下鉄路線 図6 ※データは百度百科、ウィキペディアより抽出し作成

広州地下鉄の進化 ～その路線とデザイン～

外国語学部 中国語学科3年 須山 加代子

9月11日から17日まで孫ゼミのゼミ合宿があった。各自テーマを決めてフィールドワークをする課題が出され、何をテーマにすべきか悩んだ。合宿前に広州地下鉄のビデオで、地下鉄駅のデザインの美しさを知り、実際自分の目で確かめたくなった。1日目から6日目まで乗換も含め延べ30の駅をめぐり、それぞれの駅に駅のカラーがあり、色彩のあでやかさやコンコースの広さ、天井の高さに驚かされた。またその路線の多さや路線の長さ、最新と思って持っていった路線図はもう古く新しい駅ができていたことにも驚異を感じた。東京の地下鉄は、最長路線でも、40.7 km、広州の地下鉄は75.3 kmである。そこで、広州地下鉄の進化についても調べることにした。

1 地下鉄路線の進化

(1) 延伸し続ける広州地下鉄

現在、広州の地下鉄は、19路線を広州地鐵集团有限公司が運営している。北京、上海に次いで3番目の規模である。広州に地下鉄が開通したのは、1997年6月28日。1号線が西塱—黄沙間で開業。1999年2月16日—黄沙—広州東駅間で開業。1999年6月28日全線が正式に開通した。

1号線もそうであるが、広州の地下鉄は、進化し続けている。2号線は、旧2号線と新2号線があり、開業日の2003年6月28日は旧2号線の延伸開業日で、最終延伸日2010年9月25日が新2号線の開業になる。3号線は、2005年12月26日開業だが、最初は広州東—客村が開業し、2006年に番禺広場まで延伸、2007年に広州東—機場南と延伸、2018年に機場北、2024年、番禺広場—海傍へと最終延伸している。デザインのページで紹介する4号線の南沙客運港駅は最終延伸で開業している。このように、開業が早かった路線は、次々に延伸を行っているのがわかる。(別表 広州地下鉄路線 図6を参照。)

2022年に開業した22号線も今後、南北両方向で延伸し都市間鉄道に移行する予定である。北延伸線は広州駅、白雲駅、広州白雲国際空港に接続し、南方向は東莞市、深圳市まで延伸する予定である。



図1 広州地鐵マスコット「悠悠」
2013.9.14生まれの男の子

(2) 地下鉄と都市の広がり

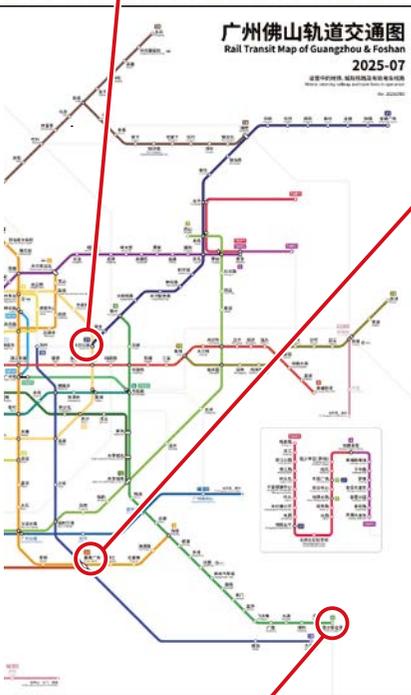


図2 広州地鐵、中国大酒店とのコラボの月餅

広州地鐵集团有限公司は、1992年11月21日、広州市政府が全額出資する大型国有企業として成立し、地下鉄の建設や運営だけではなく、都市計画、プロジェクト開発、商業運営をしており、本土で初めてTOD（公共交通機関の利用を前提に組み立てられた都市開発）を実施している。会社の本社のある万勝広場は、広州地鐵集团有限公司が開発した「地下鉄+不動産」のモデルプロジェクトである。広場の中には広州地鐵博物館などの特色ある施設があり、琶洲商業地区における商業・文化ランドマークとなっ

天河公園駅

2019年12月20日開業。21号線、11号線乗換駅。写真①のカスタマーサービスセンターやホームへの降り口(写真②エスカレーター、写真③エレベーター)のデザインに特徴。総建築面積は78,558㎡、(東京ドーム約1.7個分)公園前駅の2.3倍に相当。



番禺広場駅

2006年12月30日3号線として開業。2021年9月28日18号線が開業、2022年3月31日22号線が開業し、3駅乗換駅となる。写真⑤⑥のコンコースにある流線形の天井のデザインが特徴。新照明システムを導入。季節や乗客数に応じて自動的に光量を調節する。5階建ての駅舎コンコースとホームの総高さは20.4mで、うちコンコース高さは5.5m、ホーム高さは14.9m。総建築面積139,885.66㎡。(商業施設部分を含んで東京ドーム約3個分)。



南沙客運港駅

2017年12月28日4号線終点駅として開業。デザインは海をイメージした青を基調とし、天井には波のオブジェ。改札外の切符売り場は船の形。2019年“十大最美地铁站”として青島地铁太平角公園駅、北京地铁珠市口駅、上海地铁金吉路駅などと共に表彰を受けている。(写真⑦⑧)



2 地下鉄デザインの進化



地下鉄は、巨大ハブターミナル（写真 **A**）の一部。（地下鉄、旅客鉄道、高速鉄道、都市間鉄道駅、長距離バス、旅游バス、公共バスターミナルが入る。）

地下鉄12号線として、2025年6月29日開業。8号線、22号線24号線佛山地下鉄6号線の乗入れ予定。デザインは自然光を取入れたモダンなもの。（写真 **B** **C**）コンペには日本の日建設計が参加。

広州白雲駅

2022年9月28日8号線の駅として開業。2024年12月28日11号線の開業により乗換駅になる。デザインはホーム、コンコースの天井の照明がレインボーカラーに変わること（写真 **D E F G**）が特徴。地下鉄の出入口もレインボーカラー。（写真 **H**）



彩虹橋駅

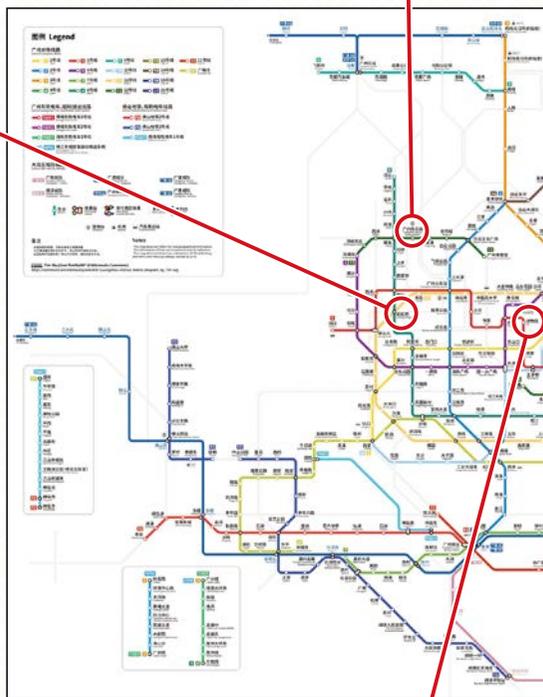


図7 広州地下鉄の路線図



1.3mを超えたり
自分の切符がいるよ！



2009年12月28日、動物園駅が開業し、広州地下鉄5号線に接続。デザインの特徴は、ホームからコンコースに上がると赤い壁面に描かれた沢山の動物たち。（写真 **I J**）壁画は広州動物園の資金援助で2017年1月22日に完成。2019年にデザイン表彰を受けている。「悠悠」も子どもたちに呼びかけていた。（写真 **K**）

動物園駅

広州の美食と夜市について

私たちは9月11日から9月17日に神奈川大学の孫ゼミ合宿で中国・広州へ行きました。ゼミの中でグループに分かれ、テーマを決めて調査をしました。私たちのグループは「広州の美食と夜市について」調査をしました。今回の調査で私たちは4か所の夜市へ行きました。それについて紹介していきます。

北京路

北京路は広州を代表する繁華街のひとつで、百貨店、ファッションブランド店、雑貨店、飲食店がずらりと並びます。紀元前から2200年以上にわたり、広州の中心として栄え続けてきた歴史的な地区です。南越王宮跡、南越国木構水閣遺跡、薬洲遺跡、北京路千年古道、万木草堂など、貴重な文化財が保存されています。昔から商業の中心地として発展し、現在では「文化・商業・観光」が融合した人気スポットとなっています。区域面積は約0.36平方キロメートルで、東京ドーム約7個分の広さを誇ります。西は教育路・昌興街、北は中山五路・広衛路、東は文徳路、南は惠福東路・文明路までを範囲としています。北京路は広州市の中心部、越秀区にあり、交通アクセスが良

いです。地下鉄「公園前駅」や「北京路駅」から徒歩でアクセス可能です。私たちはここで「绝味鱿鱼」というお店の「鲜味鱿鱼串」を食べました。(図1) イカを串に刺したもので、非常に美味しかったです。北京路は賑やかで活気に溢れており、食べ歩きを楽しんでいる外国人観光客が多く、欧米人や日本人なども居ました。(図2)



(図2) 北京路



(図1) 绝味鱿鱼

外国語学部 中国語学科3年 清水萌花・川元紀美

西華路

西華路は、中国広東省広州市荔湾区に位置し、東西に走る道路です。東は人民北路に始まり、西は広三鉄道の脇に至り、全長1600メートル、幅16メートル。荔湾路以西の区間は一方通行で、それ以外は双方向通行となっています。1933年に拡張され周辺の街巷と合併し、「西華路」と命名されました。もとの市場入口にあった「宜民市」の石碑は現在、広州博物館鎮海樓に保存されています。特徴としては道路の両側は住宅街です。西華路は北京路に比べ、地元のお店・市場・伝統的な薬屋・乾物店などが多いと感じました。鮮魚、漢方薬、乾物、布地など、生活密着型の店が並んでおり、ローカルな雰囲気味わえました。(図3) 私たちはまず、「生煎专营店 广州第一家」というお店で小籠包を食べました。(図4) ここはSNSで反響を呼び、行列を作っていました。続けて「英姐鲜奶」というお店で「英姐鲜奶茶」と「双皮奶」を食べました。(図5) 老舗の広州

牛乳スイーツで、日本人の口に合う、滑らかな優しい味わいでした。
(以上、清水萌花)



(図3) 西華路广州市荔湾区西华路422



(図4)
生煎专营店
广州第一家



(図5)
英姐鲜奶茶・
双皮奶

龍津路

龍津路は、広州市荔湾区北部に位置し、全長約2.3キロメートル。1930年に建設され、東・中・西の三つの区間に分かれ、旧市街地を貫いています。道路名は清代の「龍津橋」の伝説に由来

し、道の両側には西関の特色を持つ騎楼建築群が数多く残されています。現在では伝統的な広東料理の老舗や庶民的なグルメで知られています。さらに道路は陳家祠、荔湾湖公園などの文化的ランドマークと結ばれており、広州西関文化の核心を担う重要な存在となっています。龍津路は西華路と街並みが似ていました。龍津路沿いには、漢方薬材、乾物、衣料品などを扱う小さな商店が多く並びます。龍津路は西華路と同じく、観光客向けというより、地元の人が多い印象でした。印象的であった風景は、奥のマンションは比較的新しく見えるのに比べ、手前の商店は古い建物に見えます。(図6)この対比から、地域が完全に近代化されきっていない一方で、古い街並みがまだ人々の暮らしに根づいていることが分かります。



(図6) 龍津路

嘉禾夜市美食城

嘉禾夜市美食城は、屋台の並び、露店の灯り、通りの人の多さなど、「夜市らしさ」が強く体験

できる場所であると感じました。(図7) 印象として、観光客向けというよりは、地元民が夕食後や仕事帰りに立ち寄るような場所であると感じました。嘉禾夜市美食城では、豚の脳みそ・カエル・炒飯を食べました。(図8・図9) 見慣れない食べ物でしたが、口してみると、癖がない味で驚きました。夜市の食のバリエーションは豊富で、主張しすぎない味で、万人受けする料理が多かったです。
(以上、川元紀美)



(図7) 嘉禾夜市美食城



(図8)
豚の脳みそ



(図9)
カエル

広州

歴史と幻想が交差する街並み

2025年9月11日から9月17日にゼミ活動で訪れた広州で、私がおすすするスポットを5つほど紹介したいと思います。

まず1つ目に広州市越秀区に位置する「永慶坊」である。歴史的建築物を保存しつつ、現代的なカルチャーを掛け合わせた人気スポットである。昼間は伝統的な街並みを散策しながらレトロな情緒を味わうことができ、夜になると街全体がライトアップされ、幻想的でロマンチックな空間へと変わった。特に注目すべきなのは、水辺にかかる石橋である。アーチ型の橋は夜の光に照らされ、水面に映り込む姿がまるで光の輪のように輝いている。橋の周囲には大勢の人が集まり、記念写真や自撮りを楽しむ姿で賑わっている。中にはプロのモデル撮影を行っている人もおり、その華やかさと熱気が独特の雰囲気を生み出している。幻想的な美しさと人々の活気が共存する風景は、「永慶坊」ならではの魅力だと感じる。このように、「永慶坊」は単なる観光地にとどまらず、歴史と文化、そして人々の活力を感じられる空間として、多くの来訪者を惹きつけている。



永慶坊の水辺にかかる石橋

2つ目は「Cookie Jar 曲奇家（永慶坊店）」である。甘いもの好きならぜひ行って欲しい場所だ。



マスコットキャラクター



Cookie Jar 曲奇家の看板

あり、ポップで可愛らしい雰囲気とマスコットキャラクターが印象的だった。また、店内には色鮮やかなクッキーやタルトがずらりと並んでいる。特にフルーツをふんだんに使ったタルトは、見た目の華やかさと爽やかな甘さで人気を集めている。クッキーはサクサクとした食感に加え、バターの香りが口いっぱいに広がり、一度食べるとやみつきになる。価格は41〜100元ほどとお手頃で、ちょっとしたおやつやお土産にもぴったりだ。店

外国語学部 中国語学科3年 潘淳里

3 つ目は広州市の永慶坊にある「Blanbunny (布兰兔)」である。ここは、まるで童話の世界へ迷い込んだかのような体験ができる特別なスポットである。白ウサギをモチーフにした可愛らしい看板が目印で、訪れる人々を幻想的な雰囲気の中へと誘い込んでいく。永慶坊自体が伝統的な建築とモダンな創造性が融合した街並みを誇っているが、その中でも「Blanbunny (布兰兔)」は特に

内には可愛らしい鏡もあり、全身を映せるちよつとしたスポットにもなっていた。訪れる人の心をワクワクさせるスイーツがあり、永慶坊の散策に少し疲れたときに立ち寄れば、気分をリフレッシュさせてくれる甘いひとときを楽しめる場所だと感じた。



Cookie Jar 曲奇家の商品



1階のインテリア



Blanbunny (布兰兔) の看板

写真映えする人気スポットである。
1階には鮮やかなギフトボックスやオブジェが並び、童心に返ったような気持ちで眺めることができる。2階はクラシカルな食器や調度品で彩られていて、静かに過ごせる落ち着いた雰囲気を持っていて、3階は私たちが訪れた時は残念ながら閉鎖されていて見学はできなかったが、その分「次に訪れたときの楽しみ」として心に残った。またどのお茶も香りが香ばしく美味しくて、何種類も試飲できるシステムが用意されているため、自分の好みに合った一杯をじっくり選べるのが嬉しかった。実際に私たちも何種類か飲み比べてみ

て、それぞれの風味や香りの違いを楽しみながら、最後にどれを持ち帰るか決める過程も特別な体験になった。
「Blanbunny (布兰兔)」は、ただ可愛いだけでなく、空間全体がアートのように設計されているのが特徴的である。レトロと幻想が融合したその場所は、観光の合間の休憩や大切な人への贈り物探しに最適だった。永慶坊を訪れる際には必ず立ち寄りたい心に残る一軒だった。
4 つ目は広州を代表する繁華街の1つである「北京路」である。歴史と現代が共存する特別な



Blanbunny (布兰兔) の商品



2階のインテリア



竹青溪水飲品店のアイス



老北京水果飴

エリアであり、昼間は多くの観光客で賑わい、夜になるとネオンや大型LEDスクリーンが通りを鮮やかに照らし出し、まさに「眠らない街」のよ
うな光景が広がっていた。通りにはファッション
ブランドや飲食店、生活雑貨まで幅広い店が並
び、観光客だけでなく地元の若者にとっても「最
新トレンドを体験できる場所」として人気を集め
ている。

特に注目したいのが、スイーツや軽食を扱う店
の多さである。歩きながら食べられるスイーツ
シヨップやカフェが充実しており、買い物の間
に甘いものでリフレッシュすることができる。ま
た、気軽に立ち寄れる「名创优品 (MINISO)」は、
日用品から雑貨まで低価格で揃うため、観光の記



北京路の様子



名创优品の看板

融合を感じながら散策できる点も「北京路」なら
ではの魅力である。

Chaletey 茶乐媿お茶の魅力

最後は北京路の散策中に立ち寄った「Chaletey
(茶乐媿)」である。ここは、私にとって
お茶の魅力を再発見する大きなきっかけ
となった場所である。店内は落ち着いた
雰囲気にも包まれ、白を基調とした洗練さ
れたデザインの中で、心地よくお茶を味
わうことができる。提供されるドリンク
はどれも香り高く、直接茶葉が置かれた
スペースもあった。特に印象的だったの
は、香り豊かなジャスミンティーや、フ

念にちよつと

したお土産を
買うのにも便
利である。中
でもフィギュ
アなどは人気
があり、夜で
も行列ができ
ており、多く
の人で賑わっ
ている。歴史
的な石畳の上
に現代的な店
舗が並び、伝
統とモダンの

ルーツを組み合わせた爽やかなブレンドティーで
ある。ひと口飲むごとに、素材本来の甘みや香り
が広がり、思わず笑みがこぼれた。どのお茶も美
味しくて、何種類も試してから最後にお気に入り
を選んだ。中には睡眠を促進させる効果を持つ茶
葉や、体を癒す効果のある茶葉もあり、単なる飲
み物である以上に生活に寄り添う存在であること
を実感した。

この体験を通して、私はお茶が持つ奥深さと多
彩な魅力に気づくことができた。お茶は、香りや
味わいを楽しみ、心を落ち着かせるための大切な
存在へと変わった。「Chaletey (茶乐媿)」を訪れ
たことで、お茶をもっと知りたい、もっと味わい
たいという新しい興味が芽生え、今ではすっかり
お茶が大好きになった。北京路での買い物や散策
に疲れた時、心と体の疲れをリセットしてくれる
のは間違いなく「Chaletey (茶乐媿)」である
と思った。ここで過ごした時間は、私にとって旅の
思い出を彩る特別な時間であり、お茶との新しい
関係を築く第一歩となった。



Chaletey 茶乐媿の商品

日本と中国のファッションの違い

今回は中国と日本の若い男性のファッションの違いについて調べるために広州に行った。現地では天环广场や北京路を見て回ったのだが、日本と同様に男性ものを売っているお店は少なく、女性ものを売っているお店が大半だった。ポップアップストアも全然見つからず男性はどこで服を買っているのか不思議に思った。

まず私たちは衣料品買取店A1原優舎という日本という古着屋のようなお店に行った。ここでは新品と中古の物が売られており、日本でも馴染みがあるブランドなども売られていた。値段は日本とあまり変わらなかった。奥に進むと写真のような布に天然の落ち葉の色と形を写して模様を作っ



ている服やバッグが売られていた。転写する葉によつて違う色や模様が出るため一点物であるという特別感を感じたが値段は少し高かった。

翌日には cocktail jojo というお店に入った。このお店は落ち着いている大人の雰囲気帽子屋さんという印象を受けた。品数が凄く多くて客層も若い人が多かった。

日本の帽子よりも派手な色の帽子が多く売られていたため、中国の人は派手好きな人が多いのではないかと思った。また、店内には男性よりも女性の方が多く居たため、中国では女性の方が帽子を好む傾向があるように感じた。

私たちはその後、3MODE というお店に入った。



店内は空港や飛行機をイメージして作られたような現代的な内装だった。入口には防犯カメラが昔風のテレビで見られるようになっていたため、自分たちのレトロな写真を撮ることができるようになっていた。売り上げ向上のためのSNS映えも狙っているような感じがした。



今回の広州旅行では、ファッションの違いについてショッピングモールを見て回ったのだが、物価自体は日本より安いのに衣服は日本とあまり変わらないということが分かった。また、売られている物は日本と変わらなかったのだが男性向けは少なく、街中を見てもファッションに興味を持っている男性は日本よりも少ないように思えた。

外国語学部 中国語学科3年 田中空翔

広州の多元的都市景観とグローバル化の軌跡

2025年孫ゼミ合宿の感想

人文学研究科 中国言語文化専攻博士前期1年 顔璐一

2025年の合宿は9月11日から17日まで広州で開催された。この期間中、孫ゼミのメンバーは「広東外語外貿大学」の教員・学生と共に、内容豊かかつ忘れ難い7日間を過ごした。7日間を通じて、広州の文化・社会・経済など多岐にわたる領域に関連する諸施設や地域を見学する機会に恵まれた。孫先生からこのような機会を提供していただいたことに深く感謝する。そして今回の広州訪問を、美しい記憶の証としてこの紀行文に残しておきたいと思う。

まず、今回の合宿で私が最も印象深く感じたのは、広州における多元的な都市景観である。短期間の見学活動を通じて、「沙面」、「都市計画展示館」、「美博城」などを訪れ、広州の歴史的・文化的・都市発展のプロセス、国際的商業活動の特質を具体的に学び、広州と色々な街を立体的かつ総合的に理解する手がかりをつかむことができた。

広州到着の翌日、広外の程先生の案内のもと、大学キャンパスや学習環境を見学する機会があった。日本語言語文化学院において「広州フィールドワーク団結式」が行われ、修士課程の3名の学生による「沙面」に関する詳細な説明を受けた。この説明により、初めて沙面についての基本的な

理解を得ることができ、午後の実地調査に向けた基礎を築くことができた。沙面に踏み入れると、まるで重厚な歴史の画冊を開いたかのようで、そこには時の刻印と建築の美が刻まれていた。「沙面島」は珠江の白鵝潭沿岸に位置し、面積は約0・3平方キロメートルに過ぎない。もともとは清代の砂洲であり、宋・元・明・清の各時代を通じて広州における対外貿易の重要港として機能していた。1861年のアヘン戦争後には英仏租界となり、近代中国および租界史の研究対象として象徴的な位置を占めることとなった。島内には150棟以上のヨーロッパ風建築が現存し、新バロック様式、ゴシック様式、アーケード式などさまざまな建築スタイルが共存している。例えば、

図1の建物は旧ソ連領事館であり、1916年に建てられたものである。抗日戦争期にはドイツ領事館として使用されていた。建物は英国ヴィクトリア様式の建築で、外壁は赤レンガ造りで塗装されておらず、その外観から沙面の「西紅樓」とも呼ばれている。図2の建物は清代の1865年に初めて建てら



図1 沙面大街54号

れ、1920年に再建されたものである。この旧址は新古典主義様式の建築であり、かつては香港上海銀行（HSBC）廣州支店として使用されたほか、デンマーク領事館、ノルウェー領事館、さらにアメリカ大使館の武官館舎としても利用されていた。これらの建築物の壁面や古びた外観には長い歴史の痕跡が残されており、歩行者に歴史的時間の連続性を実感させた。

13日には、広外の教員・学生と共に、「廣州都市計画展示館」を見学した。（図3）展示館は、廣州の都市発展における歴史的脈絡や空間構造、さらには将来の都市計画を総合的に示す施設であり、都市の形成過程や空間生成の仕組みを理解する上で重要な役割を果たしている。館内の中心には巨大な立体模型が設置されており、照明やマルチメディア技術を活用することで、珠江兩岸に広がる都市空間の形態や機



図2 沙面大街68号



図3

「廣州都市計画展示館」内の模型

能配置を直感的に把握することが可能であった。さらに、展示では歴史資料、地図、映像資料を組み合わせることで、広州が伝統的商港から近代の開港都市、そして現代の国家中心城市へと発展してきた過程を体系的に示していた。

広州の歴史的名所の中で、もう一つ人気のスポットである「中山記念堂」に、14日に「美博城」へ向かう前に立ち寄って見学してみた。「中山記念堂」は、広州における重要な歴史・文化のランドマークであり、嶺南建築の精緻な技術を示すとともに、中国近代革命の歴史的記憶を伝えている。午後は孫先生の案内で「美博城」を見学した。(図4)「美博城」は越秀区站西路にあり、広州駅や流花商圈に隣接する交通便利な場所である。千以上の店舗を有し、アジア最大規模の美容・理容・化粧品品の展示・販売の場である。商品の販売やサービスは世界中に広がり、出店者に対して幅広い支援が提供されている。私はここで、物流の流れが非常に整然としていることに驚かされた。施設内はエリアごとに整理されており、かつら、健康器具、化粧品、包装資材、美容用品などが分かれて配置され、(図5)商品品の展示、卸売・小売、情報交換、配送などが効率的に行われている。(図6)特に2階の包装資材・デザイン関連の店



図4 「美博城」の入口



図5 「美博城」内の美容機器販売店

舗では、多種多様な瓶や箱、スプレーヘッド、印刷技術が揃い、顧客の要望に応じた特注設計も可能で、産業構造の分業の完成度と現場の実践的運営を確認することができた。(図7)

次に大きな衝撃を受けたのは、「黒人コミュニティ」であった。これらのアフリカ系住民は、主に広州市の白雲区、天河区、越秀区に集住しており、今回は、主に越秀区にある「瑤台村」を中心に見学することができた。図8、9、10、11はすべてここで撮影したものである。「瑤台村」は三元里の瑤台大街にあり、「御龍服装城」などの商業施設が立ち並ぶほか、「美博城」などの国際的な商業プラットフォームにも隣接している。立地が非常に便利である。コミュニティの住民の多くは輸出入貿易、衣料品、靴、帽子、電子製品等のビジネスに従事し、流動性は高い。コミュニティ内には、アフリカ人商人が一時的に滞在するためのホテル(図8)や、アフリカ料理レストラン、理髪店などが存在し、英語、フランス語、あるいはアフリカの現地語が並んでいる。これにより、多様な特色を持つ商店街(図9)がいくつも形成され、小さな「アフリカ市場」のような雰囲気であった。また、路地



図6 商場内の包装製品展示



図7 「美博城」内の包装製品展示



図8 アフリカ系商人用のホテル「広明旅店」

裏には、対外貿易における商品発送を目的とした倉庫(図10)が多数存在した。図10に示されている倉庫も瑤台村内に位置しており、もともとは個人用の車庫を改造したものである。居住形態は古いアパートや城中村が中心で(図11)、この古いアパートは「瑤台大院19号」に位置し、「御龍服装城」の向かいにあり、三元里の地下鉄駅からも非常に近く、交通が便利である。また、家賃は比較的低廉であり、短期滞在者や小規模商人の生活に適している点で、周囲の高層ビル群との対比が際立つ。都市管理上の課題は存在するものの、広州の「黒人コミュニティ」は中国とアフリカ貿易の促進、異文化交流の深化、都市経済の活性化において重要な役割を果たしていることが分かった。

今回の広州合宿では、上述の見学に加え、「椰子鶏」や「煲仔飯」などの広州名物料理を体験し、広外の学生との深い交流を行うことができた。この貴重な機会を通じて、孫先生をはじめ、広外の教員・学生の皆様に心から感謝するとともに、忘れ難く充実した日々を過ごすことができた。



図9 「瑤台村」の商店街



図10 黒人コミュニティ内の倉庫



図11 黒人コミュニティ内の古いアパート

食は広州にあり

2025年孫ゼミ広州合宿参加記

人文学研究科 中国言語文化専攻 博士前期課程1年 周煒傑

2025年7月11日から17日まで、孫ゼミの院生と学部三年生が合同で広州にて合宿に参加した。「広州外語外貿大学」の先生や学生の皆さんのおかげで、広州の旅は充実した思い出となった。学生たちはそれぞれ興味のある調査班に分かれ、広州の多岐にわたる側面を体験・調査・研究した。今回、私が注目したのは広州の食文化である。中国へ行ったことがない外国人から見れば、中国料理は「油が多くて味が濃い」というイメージがあるかもしれない。しかし、広大な国土ゆえに、各地の食習慣や習俗は多種多様であり、料理の全体的な味付けやスタイルにも大きな違いがある。例えば、四川料理の辛さ、無錫料理の甘さや山東料理の塩辛さといったスタイルがある。全国的美食中でも、広東料理がトップクラスの存在だとよく言われ、一部の中国人の心中に広州を美食の聖地と見なされている。「食は広州にあり、衣は蘇州にあり、遊びは杭州にあり」は清朝時期からの有名な俗語である。経済と交通の発展に伴い、現在の広州もはや広東料理の中心地となっている。

学生の大半は広州へ初めて来たため、感動と興奮を胸に、この未知の土地に降り立った。それは

日本から来た学生だけでなく、私自身にとっても同じであった。

初日、ホテルに到着した後、荷物を置いて、ちょっと休憩して、孫先生はすぐに私たちを近くの「凱德广场」へ連れて行った。「凱德广场」は様々な商店や飲食店が入った複合商業施設である。皆で話し合った結果、広東の特色がある火鍋の店「潮发潮汕牛肉店」に決めた。潮汕地方の牛肉火鍋は、食材の新鮮さと風味の良さで全国的に知られており、広東省を代表する名物である。これが、最初の食事の場所にここを選択した最大の理由である。

「吊龙（サーロイン）」「五花趾（牛の後脚の腱肉）」「匙柄（ミスジ）」「双层肉（肩バラ）」「鲜牛丸（牛肉団子）」など、おすすめの部位を注文



潮发潮汕牛肉店

した。鮮度が高いため、その多くは牛骨ベースの沸騰した鍋に7〜8秒さっとくぐらせるだけで最高のお味になり、口の中でアイスクリームのようにとろけた。忘れてはならないのが、「沙茶醬」をつけていただくこと。魚介の旨味と辛味を併せ持つこの調味料を添えることで、牛肉本来の風味に更なる深みが加わった。この美味しい食事から満足し、賑やかな宴の中で、広州での初日を楽しく終えた。

翌日の午前中、「広州外語外貿大学」の会議室で説明会が開かれ、広外の修士学生三名が沙面島の歴史、現状、建築、そして日本との関わりについて日本語で紹介してくれた。とても素晴らしい内容であった。説明会后、私たちは実際に沙面島を見学した。人工島でありながら美しい景観と豊かな熱帯植物に恵まれ、通りを歩くと歴史の息吹がひしひしと伝わってきた。午後、広州随一の繁華街である「北京路」へ向かい、有名な「1200」書店を見て回った。その書店は、ベストセラー、旅行、建築、建築文化に関する書籍を主に販売しているが、ビジネス書、武俠小説は避けている。古物やアンティークなどの要素を空間装飾に巧みに利用し、独特の「書物の雰囲気」と「懐かしさ」

を醸し出している。広州初の24時間営業の書店として、夜中に街に明かりを灯し、夜遅く帰る人々に精神的な空間を提供することに尽力して、バックパッカーには無料の宿泊場所も提供している。日が沈む頃、一杯のタピオカミルクティーを飲んで、この日の日程を終えた。

続く二日間で、私たちは「広州都市計画展示館」、「美博城」、そして三元里にあるアフリカ系外国人コミュニティを訪問した。これにより様々な新しい知識を学び、広州という都市への理解も深まった。

五日目の昼食には、海南文昌鶏を主役に、ココナッツウオーターをスープにした鍋料理「椰子鶏」を味わった。この料理は、広東料理の大きな特徴である「さっぱりとした薄味」を非常によく体現しており、一口目の鶏肉のしつかりとした歯ごたえの後、ココナッツの優しい甘さが後味として戻ってきた。薄口醤油、沙姜（サーキョウ）、小青桔（四季橘）、小米辣（鷹の爪）を少しだけ添えるシンプルな食べ方で、まさに鶏肉本来の味を楽しむ料理である。ただし、同行した北方出身の学生たちからは、「味が薄すぎる」という感想も聞かれた。



椰子鶏

広州は夜になっても非常に蒸し暑かったため、夕食後、広外の学生が広東の二大名物である糖水と涼茶を試飲させてく

れた。これらは漢方薬と同じように長い歴史があり、レシビによって人体に異なる効能をもたらすという特徴がある。おかげで、広州に来てから「水土不順」で出ていた私たちの鼻血の症状も改善された。

六日目、先輩に案内してもらい、広州市西関にある伝統的な酒樓、「泮溪酒家」へわざわざ足を運んだ。ここは1947年に創業し、北園酒家、南園酒家と並んで「広州三大園林酒家」と称されている。伝統的な広東料理店だが、お客様は中高年の方々が中心で、20代の私たちはむしろ場違いに感じられるほどであった。注文前、広東の習慣に従って、まず菊花茶を頼んだ。高級な緑茶も多くあったが、私たちのような若者にはまだ早く、歳月の積み重ねがなければ、その奥深さを理解するのは難しい。菊花茶は予想外に美味しく、大げさではなく誰もが最低十杯は飲める。いよいよ注



绿豆湯



「糖水」のメニュー



涼茶

文の段階になり、「馬蹄糕」、「鮮花椒蒸鱸魚（生の花椒風味スズキの蒸し）」、「紅米脆皮腸粉（紅米入りパリパリ腸粉）」、「養生スープの珍宝陳皮柑」、「牛肉腸粉」、「玫瑰豉油鶏」、「古法燒鵝」など、広東料理の定番を注文した。その一つ一つの美味しさを私の筆力で表現するのはなかなか難しい。広州に来る機会があれば、ぜひ一度この店を訪れてみてほしい。



牛肉腸粉



玫瑰豉油鶏



鮮花椒蒸鱸魚



紅米脆皮腸粉

今回の広東への旅は、中国南方の異なる食文化を体験させてくれ、私の視野を大きく広げ、多くの感動を与えてくれた。美食は、単に味覚を満たすだけでなく、人々の心を癒すこともできる。そして、食事を楽しむことは前向きな生活態度の一つでもある。この文章を読む皆さんも、仕事や勉強の合間に、食事ができる素晴らしい場所を忘れないでいただきたい。

広州建築について

2025年9月11日～17日まで孫先生のゼミで、広州合宿をした。私は広州で主に建築について見に行ってきた。広州という地は欧米列強の租借地とされていた時代もあったため、中国の伝統建築だけでなく租借地時代にできた多くのヨーロッパ建築も残されており、中洋折衷の都市と化した。また近代建築も多く過去と現在が綺麗に入り混じった都市でもあると感じた。そのような多くの魅力がある広州の建築類を三つに分けて紹介していく。

一つ目は洋風建築についてである。洋風建築は特に租借地とされていた珠江付近に集中している。特に沙面、沿江西路はほとんど洋風建築であった。ゴシック風、バロック風、ルネサンス風、新古典主義風、折衷主義風などいろいろな様式の建物があった。ものによっては封鎖されて立ち入ることができない建築もあるが、博物館、カフェ、お土産ショップ、レストランなどになっているものも多い。

沙面

タクシーから降りた瞬間、周りの建築がほぼ全

て洋風建築になっている。主に沙面のメイン通りを歩いていると、ウェディング写真の撮影や、記念写真の撮影をしている人達がとても多かった。途中でおやつ休憩にしようと思ったカフェがまさかのフランス東方汇理銀行跡地である建物であった。中は従来の外観が損なわれないよう綺麗にリノベーションされていて、カフェとしての部分は1階の半分ぐらいであり、それ以外の場所は関係者以外立ち入り禁止となっていた。しかしこの建物についての解説は大きなパネルに書かれていて、それによれば床は建設当初からあるセメントタイルとモザイク模様の床タイルであること、1914年にパーシー人の投資家であるサー・ボーマンジー卿の指揮の下、沙面で有名なオーストラリア系アメリカ人の建築会社（バーネル&パジェット）によって建設されたなど自由に読む事ができた。また多くの洋風建築のように天井がとても高く、開放感があると感じた。



沙面 フランス東方
汇理銀行跡地の外見

聖心室教会

教会の周りが現地の人達の住宅地となっていて教会に行くまでここに本当に教会があるのかとても心配で仕方なかったが、教会が見えた瞬間、その建物の美しさと迫力に圧倒された。教会の開放時間は午前と午後に分かれていて、私は午後の開放時間である3時に入ったが、気な場所だったため教会内は2～3分で満員状態になり、外も暑く、中は教台の扇風機しかなかったのほぼサウナ状態だった。また教会の中はよく見る、高い天井に、拝礼をするための椅子、先端の真ん中にはイエス・キリストの像が置いてあり、窓が全てステンドグラスで、特に太陽の光がそこから注ぎ込まれた時七色の光となっていて綺麗だった。教会の周りは広州特産の「糖水」の店が多くあると感じた。特にココナッツやマングーを扱っているものが多い。



聖心室教会
正面の外見

沿江西路

沙面から出てすぐ、珠江の隣にある道路を指し

しており、そこは順に人民橋、粵海関大樓、郵政博物館、南方大廈、愛群大廈があり、全て洋風建築である。粵海関大樓、郵政博物館は対外開放し、見学することができるが私が行った時はちょうど両方とも開いておらず、残念ながら入る事ができなく、外観だけしか見ることができなかった。また建物の手前にはその建物の簡単な解説があり、中国語だけでなく英語の解説も載っており、それを見ながら回るのも面白かった。その建築物たちの少し後ろら辺は住宅地などになっていった。



沿江西路
粵海関大樓外見

二つ目は中国風建築についてである。中国風建築は特に特定の場所にあるわけではなく、商業施設の付近、住宅地付近などにあり、人々の生活圏に溶け込んでいる。

大佛古寺

この建物は北京路というほぼ広州で一番賑わっているショッピングエリアにあり、入り口から20分ぐらい歩き、人も大勢いるためよく人につかる事が多かった。夜に行ったため大佛古寺はライトアップされ



大佛古寺
夜のライトアップ

ていて、使っている光も黄金色なのでその建物が黄金のように輝いておりしかも建物自体がとても大きいので、豪華絢爛であった。また外から見ると5階建ての建物になっていた。

中山記念堂

正門から入ると最初に見えるのは綺麗に設計された芝生があり、その奥に記念堂の建物があり、建物の前に大きな孫文の像が置かれている。記念堂に入るには入場料が10元必要であった。この建築物は外から見ると典型的な中国風建物であるが、内部は西洋建築をもとにし、劇場のようになっていて、この建物は「中式為体、西式為用」の形で作られていると解説されているように、中洋両方の良さを取り入れた建築となっているところである。建物は3階建てで、回廊は多くのものが展示されており、1階は孫文の生いたち、2階は建物の解説、3階は抗日戦争の展示となっている。特に印象に残ったのは2階にある建物の解説たちである。その中で中山記念堂のメインカラーとして使われているサファイヤブルーは孫中山の最愛の色でできていて、こだわっている部分に印象が残った。



中山記念堂
正面全体像

陳家祠

ここでは唯一入場チケットを買うときにパス

ポートが必要だった場所であり、団体の旅行者が多いと感じた。入り口からすぐ建物の壁に細かく美しい彫刻が彫り込まれていて、屋根の上にも、ドアや窓の上にもきめ細かな彫刻が彫られていてこの建物自体が彫刻の芸術だと感じられる場所であった。またここにある彫刻は壁の石やドア窓の木など以外にも磁器、象牙、レンガなど様々なのに細かく躍動的な彫刻が施されている。特に象牙の彫刻は目を惹かれるようなものであるが、現在象牙売買や彫刻は禁止となっているため、その代わりとなるものに彫られている。ここでは中国の素晴らしい職人の技術を見る事ができた。



陳家祠 骨彫の作品展示の中の韓照載夜宴図

三つ目は現代建築についてである。特徴的な建物よりも主に百貨店や学校などの身近なものについて日本と大きく違うところを感じた。それは多くの公共施設の建物の中がドーム型であり、一階から屋根の部分まで突き抜けていて壁に沿うようにお店や教室、部屋が並んでいて「口」のような設計になっているところである。このような設計によってなにか建物の中の空間が広いと感じた。



美博城 化粧品卸売り場デパート